

教育・保育課程

ちゅうりっぷ認定こども園

教育・保育理念 (事業運営委方針)	○全ての人の「5つの心」を大切にします ○多様な価値観の中で、子ども・保護者・職員のお互いを認め合います ○誰もが安心して子育てができる地域コミュニケーションの場となります ○職員は、常に5つの心を大切に、人間性と専門性の向上に努め、子どもの最善の利益を尊重します						
教育・保育方針	①5つの心を育みながら、心身ともに健康で丈夫な体をつくります ②子どもの発達段階に応じて、主体的・自発的な活動としての生活や遊びを保障します ③教育・保育環境(人・もの・空間)の中で、基本的な生活習慣や社会習慣が身につくように努めます ④四季折々の食物の生長から自然の成り立ちを理解し、食物を育てる人々の心にふれ、「感謝の心」を育ませます						
教育・保育目標	○自ら課題を見つけ、自ら考え行動する子ども(主体的に行動する子ども)		○やりたいことをやれる子ども(意欲的な子ども)		○自分を好きになれる子ども(自尊感情をもてる子ども)		
	社会的責任	人権尊重	説明責任	情報保護	苦情処理・解決		
	○認定こども園法・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく児童福祉施設として、児童・保護者・地域に対し、認定こども園の役割を確実に果たす。 ○職員は公私を問わず成熟した社会人であることを心がける。	○基本的人権を尊重する。 ○児童の最善の利益を考慮する。 ○児童を個人として尊重する。 ○保護者もまた個人として尊重する。 ○職員の生活権を保障する。	○保護者や地域社会に対して、当園の理念・方針や教育・保育活動の目的・計画を、多様な手段を用いて説明する。 ○日々の児童の様子や活動の内容を、多様な手段を用いて説明する。	○児童福祉の精神に基づいた教育・保育事業を遂行するため、取得した名前・生年月日・健康状態等の個人情報や、当園の教育・保育方針の範囲内で利用することができる。	○苦情解決責任者である園長のもとに、第三者委員を含めた苦情解決処理委員会を設置する。 ○苦情解決処理委員会の内容について、利用者全てに周知する。		
☆発達過程 0～5歳児の年齢別6クラス編成、3～5歳児クラスの縦割り教育・保育を計画的に実施。 幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び当園の理念、教育・保育方針、教育・保育目標、発達視診に基づき、年間指導計画を作成。 子ども一人ひとりの発達を踏まえて、養護と教育が一体となった教育・保育を展開する。			☆主な行事 入園式、修了式、始業式、終業式、終了式、誕生会、納涼祭、運動会、生活発表会、お別れ会、英語、音楽リミック、運動あそび(HSJ)、春の親子遠足(3、4、5歳児)、秋の遠足(3、4歳児)、園外保育(5歳児)、七夕の会、芋掘り、りんご狩り、クリスマス会、カルタ会、節分の会、ひなまつり会				
年齢別 保育 目標	0歳児	・しっかりした人間関係をつくる。 ・五感覚を育てる。 ・快い生活リズムを獲得して、快・不快を感じる(よく食べ、よく眠る) ・しっかりした歩行に向かう。	3歳児	・遊びや身近な生活経験を通して、仲間との関係を育てる。 ・基本的な生活習慣の自立に向かう。 ・身体全体を使って活発に遊ぶ。 ・自分の要求や思いを、言葉や行動で表現する。			
	1歳児	・安定した人間関係の中で一人遊びを十分に作る。 ・豊かな経験を通して言葉を獲得する。 ・快い生活リズムを獲得して、基本的な生活習慣を獲得しようとする。 ・歩行の確立に向けて意欲的に活動する。	4歳児	・仲間と共に遊び生活する中で、自立の方向に向かう。 ・進んでいろいろな運動や製作に取り組み、できた喜びを持つ。 ・手先、足先を使った動きを十分にやり、しっかり使えるようになる。 ・自分の思いや考えを言葉に出して相手に伝えられるとともに、想像の世界を豊かにしていく。			
	2歳児	・友達への関心が十分に育ち、つながりを持つようになる。 ・いろいろと経験した中で、言葉で表現する喜びを味わう。 ・基本的な生活習慣が快い感覚として身につくようになる。 ・基本的な運動機能を獲得していく(歩く、走る、飛び降りる、よじ登る、渡る、ぶら下がる、両足跳びなど)	5歳児	・仲間同士影響し合う中で、集団が育っていく。 ・経験をもとにして、次の目標に向かって自分の力を出し切る。 ・全身運動もより滑らかになり、細かい手や指の動きができるようになる。 ・イメージを豊かに持ち、それを表現する(言葉、絵など)			
保育の内容							
年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
養護	生命の保持	・一人一人の子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄等の生活的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。	・一人一人の子どもの状態に応じて、睡眠など適切な休息を取るようにし、快適に過ごせるようにする。 ・安心できる保育教諭との関係の下で、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちが芽生える。	・午睡など適切な休息の機会をつくり、心身の疲れを癒して、集団生活による緊張を緩和する。 ・安心できる保育教諭との関係の下で、食事、排泄などの簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。	・午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。 ・生活に必要な基本的な習慣が身につくようになる。	・午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。 ・自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身につける。	
	情緒の安定	・一人一人の子どもの状態に応じて、スキンシップを十分に行いながら心身と共に快適な状態をつくり、情緒の安定を図る。 ・一人一人の子どもの甘えなどの依存要求を満たし、情緒の安定を図る。	・一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を見だし、生命の保持と情緒の安定を図る。	・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・身近な動植物や自然現象に親しみ、自然に触れ十分に遊ぶことを楽しむ。	・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・身近な動植物に親しみ、それらに関心や愛情を持つ。	
教育	健康	・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や以上は早く発見し、快適に生活できるようにする。	・保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。	・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・保育教諭と一緒に全身や手や指を使う遊びを楽しむ。	・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・外遊びを十分にするなど、遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。	・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・身近な遊具や用具を使い、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・安全や危険の意味やきまりが分かり、危険を避けて行動する。	
	人間関係	・安心できる人的、物的環境のもとで、聞く、見る、触れるなどの感覚の働きが豊かになるようにする。	・安心できる保育教諭や見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心を持ち関わろうとする。	・身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友だちと関わって遊ぶ楽しさを味わう。	・身近な人と関わり、友達と遊ぶことを楽しむ。 ・保育教諭や友達の言うことを理解しようとする。 ・友達とのつながりを広げ、集団で活動することを楽しむ。	・周りの人々に対する親しみを深め、集団の中で自己主張したり、また、人の立場を考えながら行動する。 ・異年齢の子どもに関心を持ち、関わりを広める。	
	環境	・安全で活動しやすい環境の下で、寝返りや腹ばいなど運動的な活動を促す。 ・姿勢を変えたり、移動したり様々な身体活動を十分に行えるように、安全で活動しやすい環境を整える。	・安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ。 ・絵本、玩具などに興味を持って、それらを使った遊びを楽しむ。	・身の回りのものや親しみの持てる小動物や植物を見たり、触れたり、保育教諭から話を聞いたりして興味や関心を広げる。	・身近な環境に興味を持ち、自分から関わり生活を広げていく。 ・身近な社会事象に親しみ、模倣したりして遊ぶことを楽しむ。	・身の回りの人々の生活に親しみ、身近な社会の自稱に関心を持つ。 ・身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、身の回りの事物や数、量、形などに関心を持つ。	・身近な社会や自然の環境と触れ合う中で、自分達の生活との関係に気づき、それを取り入れて遊ぶ。 ・日常生活に必要な事物を見たり、扱ったりなどして、その性質や存在に興味を持ったり、数、量、形などへの関心を深める。
	言葉	・笑ったり、泣いたりする子どもの状態にやさしく応え、発生にตอบสนองしながら喃語を育む。 ・優しく語りかけたり、発生や喃語にตอบสนองしたりして、発語の意欲を育てる。	・保育教諭の話しかけや、発語が促されたりすることにより、言葉を使うことを楽しむ。	・保育教諭を仲立ちとして、生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しむ。	・生活に必要な言葉がある程度分かり、したいこと、してほしいことを言葉で表す。 ・絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しむ。	・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、イメージを広げ、言葉を豊かにする。	・様々な機会や場で活発に話したり、聞いたりして、生活の中で適切に言葉を使う。 ・自分の経験したこと、考えた事などを適切な言葉で表現し、相手と伝えあう楽しさを味わう。 ・人と話し合うことや、身近な文字に関心を深め、読んだりすることの楽しさを味わう。
	表現	・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手や指の機能を動かそうとする。 ・絵本や玩具、身近な生活用具が用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心が芽生える。	・身の回りの様々なものを自由にいじって遊び、外界に対する好奇心や関心を持つ。 ・身近な音楽に親しみ、それに合わせた体の動きを楽しむ。	・保育教諭と一緒に人や動物などの模倣をしたり、経験したことを思い浮かべたりして、ごっこ遊びを楽しむ。 ・興味のあることや経験したことなどを生活や遊びの中で、保育教諭とともに好きなように表現する。	・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づく。 ・感じた事や思ったことを描いたり、歌ったり、体を動かしたりして、自由に表現しようとする。	・身近な事物などに関心を持ち、それらの面白さ、不思議さ、美しさなどに気づく。 ・感じた事や思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に表現する。	・身近な社会や自然事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さなどに対する感覚を豊かにする。 ・感じた事や思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して、表現する。
	食育	・個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めて、健やかな発育・発達を促す。 ・離乳を進め、様々な食品に慣れさせながら、幼児食への移行を図る。	・様々な食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気のもとで食べることができるようにする。	・楽しんで食事、間食をとることができるようにする。	・友達と一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わうようにする。	・食事をすることの意味が分かり、楽しんで食事や間食をとるようにする。	・できるだけ多くの種類の食べ物を摂り、楽しんで食事や間食をする。
健康支援	内科検診・耳鼻科検診・眼科検診(年2回) 身体測定(毎月) 歯科検診(年2回) 尿検査(3歳児以上 年1回) 日々の健康状態の視診 家庭での健康状態の把握 薄着の奨励 食育の推進(和食中心、薄味、無添加未加工の食材) 保健指導(手洗い、歯磨き、うがい) 年間保健計画の作成 保健だより・給食だよりの発行 感染症の発生及び対応についての掲示 フッ素洗口(4、5歳児)						
環境・衛生管理	室内・園庭・周辺道路の清掃 0歳児玩具の洗浄・消毒 職員検便(調理・食事介助担当者 毎月) 砂場の消毒(年2回) 遊具消毒(週1回) ぎょう虫検査(年2回) 個別ハンカチ(3～5歳児) ペーパータオル(0、1歳児・職員) ポンプ式泡石鹸 酸性水常備(全クラス)						
安全対策・事故防止	避難・消火訓練(火災・地震 毎月) 交通安全指導(毎月) 消防設備点検(年2回) 園庭遊具・施設設備安全点検 救命救急講習会(年1回) 事故報告書、ヒヤリハットの作成						
保護者、地域等への支援	保護者会(各クラス年3回程度) 保育参観(適宜) 3～5歳児保育参加 個別懇談(適宜) 連絡帳による情報交換(0～1歳児:毎日 2歳児:週1回～適宜 3～5歳児:隔週1回) 園だより、クラスだよりの発行 地域育児相談(随時) 子育て支援センター(プレママ・プレパパ) 親子給食体験(3歳児) 年長児地域交流(夜高あんどん作り、鮎のつかみ取り、さつまいも堀り等) 実習生・中高生職場体験・ボランティアの受け入れ						
研修計画	園内研修(保育教諭、看護師) 県主催研修(園長、主幹保育教諭、新人保育教諭) 乳児・障害児育児相談研修 民間保育所連盟研修 全国、県社会福祉協議会研修 砺波市学校保健部会 GT富山研修						
小学校との連携	幼保連携型認定こども園園児指導要録の送付(年長児全員) 就学支援シートの作成(保護者より要請があった場合のみ) 出町小学校2年生との交流会(年1回、半日) 就学児検診・半日入学(5歳児、年1回) 各学校公開・運動会・発表会の観覧						
自己評価	施設理念、保育方針、教育・保育課程の理解 保育教諭の評価(自己評価表の実施)						